

MIU教育学部 News Letter

No.
34

見たことのない景色を見て、見たことのない自分に出会う

教育学部長メッセージ



求められる「学び」は？

教育学部長 河原 国男

学部立ち上げから12年間学部発展に尽力され、教員採用試験合格率100%を達成した福田先生のご退職後、学部長を引き継いだ立場上、今後のことをあれこれ懸念しましたが、それを補って余りあるほどの大きな期待が、日に日に膨らんでくるのを感じます。

その1 新たに加わった先生方が、専門分野を通じて学生の皆さんの興味関心を豊かに啓発されていることです。4年生に提示した「卒論指導可能テーマ」一覧に見るならば、「教育相談で活用できる『その子どもの環境に適した』具体的支援」、「ICTを幼児に対する教育活動にどのように活かしていくのか」、幼稚園・保育所におけるいわゆる「気になる子」に対する「理解の構造を明らかな」にする、「『遊び』の一環として楽しみながら行われる造形活動の素材や表現方法、環境構成などの調査・検証」を行う、「学級経営を通じて、忍耐力・協調性・自己肯定感・感情調整力などの非認知能力を育成する方法を探究する」、といった内容が記載されています。4年生諸君の探求的な学びが期待できます。

その2 これまで在職されていた先生方も、皆さんの学修指導に今まで以上に尽力しておられます。福田先生がその基盤を作られた「履修カルテ」は、実に貴重です。アドバイザーの先生方の、誠に地道な行き届いたチェックを経て、これまでの学びを振り返り、確実に定着させ、蓄積する機会が与えられています。自らその蓄積を実感できた人ほど、自信をもって試験に向かえるでしょう。ただ、こうした期待に反し、振り返れば、最低限の学力さえ身に付いていなかった学生が、一定数存在するのも事実です。自信をもって教科を教える力を「基礎ゼミ」(略称)に参加して身につけてほしいです。1つのテキストを何周も取り組みながら知識、理解を確実にする学びです。この点については、幼保の皆さんも同じです。今年、幼保のこれまでの講座を再構築して、「保育者養成プログラム」が立ち上がりました。より実践的なフィールド体験(助産院での現場体験もその一つ)から問題発見し、自分のしなやかな感性をもって受け止めることが期待される学びを通して、大学4年間で「質の高い保育」を学ぶのです。

その3 経験豊かな「外部講師」の先生方も、懇切丁寧に、熱心な受講生を相手にご指導してくださっています。出題される基本的知識、面接の作法等を、ぜひ一つ一つ習得してほしいと思います。

さて、このように学生諸君に期待される学びの様態に触れ、3つのことを指摘します。第1は、求められる学びの様態は多様であること。その多様性に応えていかななくてはならないこと。第2に、その学びは、忍ヶ丘の地にとどまらず、この地区を越えて広いキャンパスとして展開すること。第3に、一これこそ私が強調したいことですが一いずれにせよ、身近なものとして提供されていること。伊藤仁斎先生の強調した言葉で申しますと、「学」は「日常卑近」においてこそ成り立つのです。

学生教職支援センターより

今年度、九州各県の教員採用一次試験は6月15日(長崎県は5月11日)に設定され、大学3年生が受験できる「3年生チャレンジ受験」も始まりました。このように、教員採用試験の早期化と複線化が進んでいます。これらは、教員不足などの社会課題に対するものです。そこで、本学教育学部の学生のように、小学校教諭等を志す人材は大変貴重です。そして、その礎を築く大学教育は、今後益々充実したものにならなければなりません。宮崎県教員育成指標においても、大学教育は養成期として位置付けられ、

- ・ 教員に求められる資質・能力について理解を深め、その基盤を身に付ける。
 - ・ 教育に対する知見を深め、情熱や使命感を温める。
- などと示されています。



教育学部教授
渡邊 耕二 センター長



宮崎国際大学では、学生教職支援センターが中心となり、教職を目指す学生の支援を強化しています。例えば、センターが運営する「教員採用試験対策講座」は、1～4年次までに100を超える講座を設け、基礎力と応用力の育成に取り組んでいます。その中では、宮崎県教育研修センターから講師を招いたり、宮崎県が実施するスクールトライアル事業に参加したりなど、宮崎県教育委員会との連携も図っています。また、現役合格を希望する学生の夢を実現する講座も実施しています。今年度も現役合格を目指す4年生が勉学に励んでいます。

宮崎国際大学学生教職支援センターは、教育学部・国際教養学部と連携し、4年間という大学教育をフル活用して、大学生の学修と希望を叶えるサポートをしています。



MESSAGES FROM GRADUATES



子どもに寄り添う指導と学級づくり

宮崎市立本郷小学校 教諭
田村 彩華

(令和7年3月宮崎国際大学教育学部卒業)

私は現在、小学校2年生の学級担任として、子どもたちと一緒に成長できるように頑張っています。子どもたちと接する日々は、笑顔や驚き、時にはいざこざや怪我など、予期せぬ出来事の連続ですが、その一つ一つが学びであり、教師としての成長の糧になっています。

クラスには30人の子どもたちがいて、一人として同じ子はいません。それぞれの性格や考え方、得意なこと、苦手なことが異なります。そのため、一つの指導方法が全員にうまくいくわけではありません。そんな中、同僚の先生から「その子にぴったり合う指導があるから、たくさん試してみよう」とアドバイスをいただき、数日かけて様々な方法を試してみました。その結果、その子にぴったり合う方法を見つけることができたとき、教師としてのやりがいや喜びを感じました。

私は、教師には子どもたちをよく観察する力、そして一人一人に合わせた多様な指導法を持つことが大切なのだと実感しました。今後も子どもたちの小さな変化に気づき、その子にとって一番良い方法を模索し続ける教師でありたいと思います。そして、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる学級づくりを目指し、さらに自分自身の指導力を磨いていきたいと考えています。



保育士になった今思うこと

宮崎市立青島保育所 保育士
久世 奈々加

(令和7年3月宮崎国際大学教育学部卒業)

私は現在、2歳児クラスの担任をしています。保育者になって2か月が経ち、最近では自分が主となって保育をする週もあります。反省点の多い毎日ですが、特に保育の進め方や障害児とのかかわりに関しては、経験豊富な先生方から助言をいただいたり、真似してみたりして、日々学んでいるところです。保育者の仕事内容は、連絡帳や日々の日誌、保育計画の作成、行事の準備など、大学の頃に想像していたよりも大変でした。しかし、子どもたちの笑顔や成長を近くで見ることができる、とても素敵な職業だと実感しています。

今後の抱負としては、子どもの声に耳を傾け、子ども主体の保育を目指しています。今はまだ、自分自身に余裕がなく、子どもを主体にすることがとても難しく感じています。今後は、子どもの声にできるだけ耳を傾け、子どもがしたいと思えるような環境づくりを工夫したり、設定保育の中でも、子ども自身が選択できる場面を作ったりすることで、子どもたちが自ら学び成長できる保育を実践していきたいと思います。

皆さんも、自分の夢や目標の実現に向けて、沢山のことを学び、充実した大学生活を送ってください。応援しています！

在学生の声



4年間を通じて多くの知識を

教育学部1年 田中 優加

「皆さんは、スポーツなどを大学まで続けていた人と、小学校まででやめた人、どちらに教えてもらいたいですか？」これは、大学の授業で先生から投げかけられた問いです。

結果として、私を含め、ほとんどの学生が「大学までしていた人」と答えました。それに対して先生はこうおっしゃいました。

「教師として教える立場に立つなら、中途半端な知識のままで子どもたちに教えることはできません。それは、何より教わる子どもたちに大きな影響を与えるのです。」

この言葉を聞いたとき、私は改めて「教える」ということの意味を考えさせられました。子どもたちに学ぶ楽しさや、学びを通して視野が広がることの素晴らしさを伝えられるような教師になるためには、まずは自分自身がしっかりと学び、深い知識を身につけなければならないと感じました。

宮崎国際大学は、授業の掘り下げ、そしてプラスアルファの学びができる場だと入学して感じました。この素晴らしい環境の中で、勉学に加え、ボランティア活動や教育関連事業などに積極的に参加し、大学生活でしか体験できないことに多く挑戦していきたいと思っています。そして、目標の小学校教師になれるよう、今ある全ての環境への感謝の気持ちを忘れず、4年間精進していきます。

教育学部教員より



小さな学び舎で育む、大きな成長

—宮崎国際大学教育学部での4年間—

教育学部副学部長・教授 坂倉 真衣

宮崎国際大学教育学部は、1学年50名程度の小規模な学部で、アットホームな雰囲気の特長です。学生同士はもちろん、学生と教員の距離も近く、互いに学び合い、知的な刺激を受けられる環境が大きな魅力です。幼児教育では「環境を通して行う教育」が基本とされますが、これは大学教育にも通じる考え方です。環境とは、「生物を取り囲み、相互に影響を与え合う外界」を指し、自然や社会だけでなく、人や物も含まれます。

本学では、小規模だからこそ、多様な人や物、出来事とのかかわりの中で互いに影響を与え合い、豊かな学びが実現できます。4年間を終えたときに「ここで学んでよかった」「大きく成長できた」と感じてもらえるよう、私たちは全力でサポートします。一緒にがんばっていきましょう！



特別支援教育の新しい情報の発信基地に

教育学部教授 松田 昭憲

担当科目: 特別支援教育概論・教育相談・障害児保育

今年度、教育学部に着任しました松田 昭憲(まつだ・あきのり)です。専門は特別支援教育で、2つの研究テーマがあります。

1つは、重度重複障害児のコミュニケーションです。言葉で表現できない、写真カードも使えない重度重複障害児に対して、タッチモニター等を使って、1年から3年間という長期の指導により、写真カードで自分の意思を伝えることができる指導課程を研究しています。

次は、発達障害児の支援の検討です。対象児に心理検査を実施し、担任を含めた学校関係者や保護者からの情報を下に心理検査の結果を分析し、対象児の力の状態をグラフ化し、学校や家庭で必要な具体的支援を検討します。また、この研究を学生の皆さんと進め、学校現場に発信したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



自然豊かな青島で「新たな仲間と繋がる、学び深まる」 青島レクリエーション



教育学部3年 AA (左から)

植松 凜太郎 (宮崎工業高校出身) 中園 蒼 (宮崎西高校出身)
甲斐 瑞季 (延岡高校出身) 川崎 真奈香 (延岡学園高校出身)
宗安 優 (鹿児島県立松陽高校出身) 津曲 雛菜 (宮崎大宮高校出身)

今年行われた青島レクリエーションは、新入生オリエンテーションからわずか約2週間後の実施となり、限られた準備期間ではありましたが、新入生に楽しんでもらえるよう、両学部のAA全員で協力して企画を考えました。

午前中は「先輩と共に考える」という時間を設け、新入生が大学生活について不安や疑問に感じていることを、AAや先生方が答えるという交流企画を行いました。円になって話をすることで楽しく会話ができ、新入生の笑顔も多く見られました。大学生活への不安が少しでも和らぐきっかけにもなったのではないかと思います。

午後は、私たちが企画したレクリエーションを実施しました。まず、綱引きでは教育学部と国際教養学部でそれぞれチームを作り、トーナメント形式で競技を行いました。各チームが円陣を組み、力を合わせて競技に取り組む姿が印象的でした。

続いて行われた障害物競走では、風船割り、ぐるぐるバットなど様々な種目を取り入れました。中でも工夫したのは、最後の種目である借り物競走です。ただの借り物競走ではなく、お題に先生方の名前が書いてあり、お題に書かれている先生を連れて、一緒にゴールまで走るという種目でした。

前年度の振り返りから、先生方と学生の交流が少なかったという反省点が挙がっていたため、今回は先生方との交流の機会を取り入れました。この競技を通じて、新入生は先生方の名前を覚えると共に、同級生や先生方との交流を持てたと思います。その後は、施設や青島の自然を生かした水上アスレチックやハイキングなどのアクティビティの時間がありました。

どの企画も大いに盛り上がり、無事に終わることができたことで、大きな達成感を得られました。今後も、新入生の大学生活を支える活動を考えていきたいと思えます。

AA(アドバイザー・アシスタント)は、本学の学生が先輩として相談相手となり、アドバイザーの教員とともに、新入生を支援する制度です。



教育学部教員より



着任のご挨拶

教育学部教授 渡邊 裕

担当科目:情報処理・教育の方法と技術・ICT活用の実践



今年度から教育学部に着任した渡邊 裕(わたなべ・ひろし)です。学生の頃、アメリカコロラド州ボルダーという街のある研究機関に短期研究員として滞在していたことがあります。同期だった研究員の方に「とてもよいところですね」と言うと、その方は「また来ればいい。研究者は旅人だ。」と言っていました。以降、私は時間があれば海外旅行に行くことが多くなり、いろいろな国の文化にも興味を抱くようになりました。宮崎国際大学にご縁があったのも、国際社会に貢献する人材を養成することを目指す本学の教育理念に共感するものがあったからかもしれません。

私は教育学部の出身ですので、学生の皆さんの様子を見てみると当時の自分を思い出すような気持ちになります。宮崎はとても過ごしやすく、居心地のよい場所だと思います。この地を拠点にじっくり学び、充実した学生生活を送っていきましょう。



“学び続ける教師”の育成を目指して

教育学部講師 田上 幸雅

担当科目:国語Ⅰ&Ⅱ・生徒指導・進路指導

この春から宮崎国際大学教育学部に着任した田上 幸雅(たがみ・ゆきまさ)です。これまで小学校・中学校・高校で勤務してきた経験があり、今回、大学でも教えることになったことで、すべての校種を“完全制覇”することとなりました。

現場での経験を通じて実感したのは、「教師とは、常に学び続ける存在である」ということです。本学では、学生の皆さんとともに、問い、悩み、そして発見するプロセスを大切にしながら、“学び手としての教師”を育ていきたいと考えています。

宮崎のやわらかな風に背中を押されながら、新たなチャレンジに胸を高鳴らせる日々を送っています。どうぞよろしくお願いいたします。



宮崎で紡ぐ実践的美術教育

教育学部講師 山本 辰典

担当科目:図画工作・図画工作教育法・造形表現演習



はじめまして。美術教育(図画工作)を専門に担当する、山本 辰典(やまもと・たつのり)と申します。このたび、ご縁あって愛知県より宮崎国際大学に着任し、豊かな自然と歴史文化に彩られたこの宮崎の地で、新たな生活をスタートさせました。今後は、宮崎という地域性を活かした教材開発や、地域社会と連携した活動にも挑戦していきたいと考えています。地元の素材や風景、伝統文化などを取り入れながら、学生が“土地の表現者”として学べるような実践的な活動を展開できればと願っています。この新しい環境で、私自身も「学ぶ者」であり続けながら、美術教育の可能性を広げていきたいです。学生と「共に学び、共に悩み、共に創造する」そんな授業と関係づくりを目指し、日々研鑽してまいります。どうぞ、これからよろしくお願いいたします。



心理学の観点から考える教育のあり方

教育学部講師 劉 一杰

担当科目:教育心理学・心理学概論・保育の心理学

今年度から教育学部に着任いたしました、劉 一杰(リウ・イージェ)です。中国出身で、これまで教育心理や子ども理解などを専門とし、研究をしてきました。

私が主に担当する授業は心理学概論、教育心理学、保育の心理学などです。実際に、子どもの心や行動を理解し、より適切な関わりをするためには、心理学の知識がとても役に立ちます。そうした知見を、子どもとの関わりや保育・教育の現場にどのように生かしていけるか、そして子どもだけでなく、他者とともに楽しく円滑に関わっていくためにはどう心理学を応用していけるのかなど、一緒に考えていきたいと思っています。

また、異文化の視点も取り入れながら、さまざまな価値観を知ることや、広い視野を持つことの大切さについても伝えていきたいです。これからどうぞよろしくお願いいたします。

幼保

保育者養成プログラムがさらに充実！

今年度よりさらに充実した保育者養成プログラム！「子どもに会う」「保育のいとなみに会う」「子どもを取り巻く諸問題に向き合う」ことを目指し、実感を伴った学びを重視します。子ども一人一人がしあわせに歩んでいくために何が自分にできるのか考え、子どもや子育て家庭と共に拓く未来への一歩を踏み出す力を養います。

自然体験ワークショップ



赤ちゃんとの関わり方演習



日南市 こども園見学

おみせやさんごっこ



都城市 こども園見学
仕切りのない保育室と
おやじの会手作りツリーハウス



日南市 子育て支援センター見学
木のボール・プールで遊ぶ



都城市 助産院見学
温熱マッサージ体験中

のはらうた

「こうきしん」 こぶたはなこ
わたしは なににでも
はなをつっこみます
つまり「こうきしん」なのね
「こうきしん」をバラバラと
ふりかけると
せかいじゅうがおいしくなります
工藤直子『のはらうたIV』より



イベント情報

オープンキャンパス を以下の日程で開催します。

ホームページやSNSでは伝えきれない、宮崎国際大学の魅力を体感できるチャンスです。

学部紹介や学食体験など、本学の大学生活を味わうことができます。ぜひ、お気軽にご参加ください。

開催日：7月13日（日）、8月10日（日）

開催時間：10:00～15:00（9:30受付）

遠方からお越しの方へは交通費サポートがあります！

詳細はこちらから

<プログラム内容>

- ・学部紹介
- ・小論文対策講座
- ・体験授業
- ・学食無料体験
- ・交流カフェ
- ・保護者向け進学講座



おいしいメニューがいっぱい！



先輩大学生と
たくさん交流
できるよ！



在学生との交流カフェ



小論文対策講座



体験授業

入試に有利な小論文の書き方のコツは？

先輩と一緒にやってみよう！

